

### 学校教育目標

- ・自ら学ぶ生徒(自主・創造)
- ・思いやりのある生徒(寛容・協力)
- ・最後までやり抜く生徒(気力・体力)

力のかぎり  
あるかぎり

### 重点目標

夢や目標をもち、自己を高めようと努力し続ける生徒 ～生徒に達成感を味わわせ、自己有用感を高める教育活動の推進～

### 光晴中学校で身につける資質・能力

 <p><b>課題設定力</b> ・状況に応じて何をすべきか、どうやって成し遂げるかを自分で考え出せる力</p>	 <p><b>柔軟性・耐性</b> ・変化への対応や機転を働かせながらやり抜く力</p>
 <p><b>論理的な思考</b> ・筋道に沿って物事を深く考えることができ、複雑なこともわかりやすく説明できる力</p>	 <p><b>共感・傾聴力</b> ・真剣に話を聞き、相手を深いレベルで理解し、気持ちを尊重できる力</p>
 <p><b>自己効力</b> ・課題に直面しても「自分ならできる」と物事を進めることのできる力</p>	 <p><b>決断力</b> ・自分の考えと客観的な事実を照らし合わせながら判断できる力</p>

### 教育目標に迫るための教職員の基本的な構え

 <p><b>生徒を子ども扱いしない</b> ・せっかく資質・能力を育成する機会や学習活動であるのに、子ども扱いをしてしまうことで、生徒が自律する機会を奪ってはならない。</p>
 <p><b>手段と目的を分けて構想する</b> ・手段が目的化する(手段ありきになる)と生徒の学びはなくなる。活動の目的と手段を峻別すること。そして最上位の目的を生徒と合意形成することが大切である。</p>
 <p><b>自らの専門性を現在進行形で伸ばす</b> ・我々も生徒と同じ「学が存在」である。だからこそ、生徒は教職員を先達として仰ぐのである。我々は「かつて学んだ存在」ではない。</p>

### 光晴中学校の教育改革の方向と「社会に開かれた教育課程」

